

令和5年8月24日 発表

中小企業月次景況調査結果

令和5年7月分

～令和5年7月 データから見た業界の動き～

令和5年8月24日 発表

非製造業の売上高回復は著しいが……
運送業・建設業は「2024年問題」による事業継続に危機感



山梨県中小企業団体中央会

〒400-0035 山梨県甲府市飯田2-2-1

TEL 055-237-3215 FAX 055-237-3216

<http://www.chuokai-yamanashi.or.jp/>

～令和5年7月 データから見た業界の動き～

令和5年8月24日 発表

非製造業の売上高回復は著しいが・・・

運送業・建設業は「2024年問題」による事業継続に危機感

■ 概 況

7月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で

売上高 +12ポイント（前年同月比8ポイント↑）

収益状況 ▲20ポイント（前年同月比14ポイント↑）

景況感 ▲14ポイント（前年同月比4ポイント↑）となり、

全てのD.I値が前年同月を上回った。牽引は非製造業によるもの。

業種別で、製造業では…

売上高 ▲20ポイント（前年同月比25ポイント↓）

収益状況 ▲40ポイント（前年同月比5ポイント↑）

景況感 ▲30ポイント（前年同月比5ポイント↑）となった。

売上高D.I値が大きく低下（前年同月と比べ▲25ポイント）した。「半導体関連・自動車関連製品ともに受注量の低迷が続いており、前年同月と比べ売上げ・収益状況ともに▲10%となった（金属製品製造業）」や、「物価高騰による景気の先行き不安から住宅需要が低調で仕事量も減少している（木材・木製品製造業）」など、受注量・仕事量の減少が報告された。

電気機械器具製造業では、医療関係機器の開発が進んでおらず、量産化の目途も立っていないことから「当面の間は受注量が厳しい状況が続く」など、製造業全体が冷え切っており、中小企業者個々の企業努力だけではカバーできない状況である。

非製造業では…

売上高 +33ポイント（前年同月比30ポイント↑）

収益状況 ▲7ポイント（前年同月比20ポイント↑）

景況感 ▲3ポイント（前年同月比4ポイント↑）となり、

全てのD.I値が前年同月を上回った。特に売上高は+30ポイントとなり、コロナ5類移行による人流増加の影響を強く受けた小売業やサービス業が数値を押し上げた。しかし、「商品の販売価格を値上げしたが、仕入れ価格の上昇分のみである（水産物卸売業）」とその他諸物価、電力価格等の経費上昇分の転嫁が進まず、十分な収益の確保には結びついていない状況である。

また、運送業・建設業では、2024年問題への対応に苦慮しており、「将来への不安から退職するドライバーが増加しており、このままでは運送業界を志す人も減少してしまう（道路貨物運送業）」や、「働き方改革（建設業の時間外労働上限規制）や、資材価格の高騰により経営状況は悪化する一方である（型枠工事業）」など、先行きに対し不安材料を抱えている。

中央会では7月の調査に合わせて月次景況調査組合又は企業の電子帳簿等保存制度への対応状況を聞いたところ、42社（有効回答数）より回答を得た。対応が「完了済み」との回答は41%、「対応検討中」との回答は55%、「対応未済（制度を知らない）」との回答は4%となった。また、「組合員向けの周知が必要」との回答は12%であった。

令和6年1月に完全実施される電子帳簿等保存制度では、法人・個人を問わず、電子的（インターネットやメール等）に受領した請求書・領収書（例：電気料金やリース料、ネットでの買い物）、自社から発行した見積・請求書・契約書に至るまで、紙でなくデータでやりとりされたものは、電子データの保存義務が完全施行される。

電子データでの保存義務化といっても単にファイルを保存しておけばよいというわけではなく、「検索機能の確保（取引年月日その他の日付、取引金額、取引先をファイル名に明記）」など、保存の方法も細かく定められている。一足先に10月からはインボイス制度もスタートし、経理業務を取り巻く環境が大きく変化する。組合員や取引先の対応状況の把握も含めて、後回しにはできない。

中央会では専門家派遣等を活用して様々な制度改正に対する支援を強化していく。お気軽にご相談ください。

■ 調査員からの国等への要望・コメント **ピックアップ!**

中部横断道や新山梨環状線の伸延により民間企業の新設・増設は増えているものの、公共投資の予定が見えない。

リニア新幹線開通をきっかけとした、官庁・省庁などの地方分散を促し、県内への誘致を行うなど、県内経済の起爆剤となる活動に期待している。（鉄骨・鉄筋工事業）

業界からのコメント

● 製造業

食料品 (水産物加工業)	水産物加工▶年始に向けたおせちの前倒し受注が好調であり、前年同月と比べ売上げは112.2%となった。量目調整を含め販売価格の値上げを一部商品で実施したことで、収益状況もわずかに好転した。
食料品 (洋菓子製造業)	洋菓子製造▶アイス・夏物ギフト品の売れ行きが好調であり、前年同月と比べ売上げは113.6%となった。1/3程度の商品の販売価格を改定したが、改定商品群の売れ行きは未改定の商品群と比べ低調である。
食料品 (パン・菓子製造業)	7月から製品価格を値上げしたが、値上げの効果が表れるのは8月以降になると予測している。
食料品 (酒類製造業)	コロナ5類移行後、ワインの消費量回復を僅かに感じているが、先行きは不透明である。2023年のヌーボー（その年に収穫されたブドウで造った新酒）ができるころからは消費量の大きな伸びを期待している。
繊維・同製品 (織物)	県内の織物業界で共通する課題は高齢化や後継者不足による休業や廃業の増加である。
繊維・同製品 (織物)	原糸の入荷不足や原材料・電力価格の上昇が課題であるが、製品価格への転嫁は難しい状況である。 織物業だけでなく加工業者（撚糸、染色、整経）の減少が課題であることから、産地存続のためにも関連業種が集まり対策を検討する場を立ち上げる予定である。
木材・木製品製造	ウッドショックが落ち着いたことで、前年同月と比べ木材販売価格は10%程度下落、物価高騰による景気の先行き不安から住宅事業が低調で仕事量も減少している。
家具製造	前年同月と比べ売上げ▲5%となった。物価高騰の影響から受注量が大きく減少しており、回復にはまだまだ時間がかかると感じている。
窯業・土石 (砂利)	災害復旧工事により製品の需要が増加している地域もあれば、工事の少ない地域では需要が少なく、地域によって差が大きい。
窯業・土石 (山砕石)	前年同月と比べ売上げ▲15%、収益状況▲11%となった。渇水時期の工事が優先されたため一部資材の需要は高まったが、コンクリート製品向け資材の出荷量は伸び悩んでいる。工事の発注量が増加していないため、予定数量の増加も見込めない。
鉄鋼・金属 (金属製品製造業)	半導体関連・自動車関連製品ともに受注量の低迷が続いており、前年同月と比べ売上げ・収益状況ともに▲10%となった。
一般機器 (業務用機械器具製造業)	前年同月と比べ売上げは▲30%、収益状況は▲25%となった。業界全体で物価高騰による収益の確保が困難な状況が続いている。受注量の減少も深刻であり、8月分の受注量は前年同月と比べ40%～50%減少している。
電気機器 (電気機械部品加工業)	前年同月と比べ収益状況▲10%となった。官公庁の発注計画がまだ出ておらず、民間需要も先方の都合による納期の延期が発生しているため、手空きの状況が続いている。
電気機器 (電気機械部品加工業)	医療関連機器の開発が進んでおらず、量産化の目途も立っていないことから、当面の間は受注量が厳しい状況が続くことを予測している。製造業全体が冷え切っており、企業努力だけではカバーできない状況である。
宝飾 (研磨)	甲府で開催された展示会では、来場者数・売上げがともに前年を下回った。

● 非製造業

卸売 (水産物)	商品の販売価格を値上げしたが、仕入れ価格の上昇分のみで、電力価格等の経費上昇分は転嫁できていないため収益状況は改善していない。 また、コロナ5類移行後の客足の回復は想定を下回った。
-------------	---

卸売 (ジュエリー)	地金やルース（色石）の価格高騰が続いており、収益の確保が困難な状況が続いている。物価高騰による節約ムードの高まりに加え、猛暑により小売店の客足も伸び悩んでいる。さらに、香港で開催された展示会では前回と比べ売上げが半減した事業者もあったなど、先行きに陰りを感じている。 コロナ融資の返済も始まる中、年末商戦に向けた仕込みの時期となるため、資金繰りに苦慮する事業者が増えることを予測している。
小売 (青果)	前年同月と比べ売上げは5%増加したが、収益状況は▲5%となった。コロナ5類移行により人流の増加を感じるが、野菜の動きは悪かった。
小売 (食肉)	コロナ5類移行により飲食店・宿泊施設の客足が回復傾向である。輸入食肉の入荷状況が安定しないのが気がかりである。
小売 (電気機械器具小売業)	猛暑の影響と省エネ機器の需要の高まりにより、エアコンの売上げは前年同月と比べ30%増加した。冷蔵庫の売上げは4月～6月は前年を上回っていたが、7月は10%減少した。A/V関連機器の売れ行きは、海外製の低価格製品の需要の高まりによる伸び悩みを感じている。
小売 (ガソリン)	激変緩和対策事業の補助金額が6月より段階的に縮減されており、7月末のレギュラー小売価格は1リットルあたり175円を超えた。8月も補助金額のさらなる縮減が予定されており、仕入価格の上昇による組合員の収益状況の悪化を懸念している。
商店街	コロナ5類移行により大月駅の利用客が増加したことで、組合が管理する駐車場の売上げは増加した。7月に開催した「サマーセール」や新企画「ラッキー商店街の日」の実施により商店街の売上げは微増したが、まだまだ厳しい状況は変わらない。
宿泊業	観光客・ビジネス客ともに多く施設の稼働率は好調であるが、物価高騰による収益状況の悪化、人手不足が深刻な課題である。
宿泊業	外国人労働者の受け入れ状況がコロナ禍以前に戻りつつあるが、観光・宿泊業界全体で人材不足の状況は変わらない。原材料価格の高騰分の転嫁を進めたいが、全国旅行支援の終了による旅行需要の低迷がどの程度かによる。
産業廃棄物処理	深刻な人手不足が続いており、今後は業界全体で設備投資が増加することを予測している。
警備業	コロナ5類移行により大型イベントが復活し、土日・祝日の警備業務は増加したが、平日の土木工事における中期現場の減少や、夜間の果実盗難防止の巡回・コロナ関連の警備業務がなくなったことで、前年同月と比べ売上げ・収益状況ともに▲10%となった。 また、連日の猛暑により、屋外で稼働する警備員の中で体調不良者が多く発生しており、各社で熱中症対策に悩まされている。
建設業 (総合)	7月の県内公共工事は、前年同月に比べ件数は▲4.3%、請負金額は33.8%増加した。7月末累計の件数は▲4%、請負金額は▲3%となった。
建設業 (型枠)	働き方改革（建設業の時間外労働上限規制）や、資材価格の高騰により経営状況は悪化する一方である。東京の大手ゼネコンが山梨県の倍ほどの日当で地方から職人を集めているため、県内の職人が多く流出している。深刻な人手不足により受注を断らざるを得ない状況である。
建設業 (鉄構)	昨年度の引合い物件数は10年前の▲12%とかなり落ち込んだが、今年度に入り4ヶ月を経過した時点で前年同月比で146%と回復傾向である。
設備工事 (電気工事)	コロナ5類移行により経済活動は活性化し、民生用の需要は回復しつつあるが、電気工事業まで景気回復の影響が波及するまではまだまだ時間がかかると感じている。後継者育成や人材確保にも頭を抱えている。

<p>設備工事 (管設備)</p>	<p>前年同月と比べ売上げは12%増加したが、収益状況は▲1%となった。前年同月の実績が好調だったため、先行きの予測が難しい。</p>
<p>運 輸 (タクシー)</p>	<p>4月の初乗り運賃の改定以降、週末夜間を中心にタクシー稼働の伸びが続いているが、燃料価格のさらなる上昇による収益状況の悪化を懸念している。</p>
<p>運 輸 (トラック)</p>	<p>コロナ5類移行により荷動きは活発になってきたが、国の燃料油に対する補助金額が6月より段階的に減少しているため、燃料価格の上昇による収益状況の悪化が深刻である。 「2024年問題」がマスコミに大きく取り上げられたことで、将来への不安から退職するドライバーが増加しており、このままでは運送業界を志す人も減少してしまうと感じている。 今後、県内の輸送需要が最も高まる時期に入るが、燃料高騰・人手不足による厳しい状況が続くことを予測している。</p>
<p>その他 (介護)</p>	<p>利用者の入れ替わりにより、保険収入は減少したが、保険外収入は増加し、全体の売上げは5%増加した。</p>

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2022年7月	2023年6月	2023年7月	2022年7月	2023年6月	2023年7月	2022年7月	2023年6月	2023年7月
売上高	5	▲ 15	▲ 20	3	17	33	4	4	12
収益状況	▲ 45	▲ 35	▲ 40	▲ 27	0	▲ 7	▲ 34	▲ 14	▲ 20
景況感	▲ 35	▲ 35	▲ 30	▲ 7	7	▲ 3	▲ 18	▲ 10	▲ 14

※((良数値÷対象数) ×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値

